

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490300086		
法人名	株式会社リーフ		
事業所名	グループホーム 小祝	ユニット名	さくら
所在地	大分県中津市宇小祝525番地277		
自己評価作成日	平成26年1月10日	評価結果市町村受理日	平成26年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバンマトリックス 大分事業所		
所在地	大分県中津市耶馬溪町大字大島2640		
訪問調査日	平成26年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周防灘が目の前にある自然にあふれた施設で、天気の良い日は海を眺めながらの散歩が楽しみ、気分転換も図れます。又、桜並木があり、開花時期には花見も行え季節感も味わうことができます。近隣地区で散歩や花見、地域行事に参加する事で、小祝漁協の漁師さんや地域の方とも交流が持て施設に対する理解も深まっているとおもわれます。施設内は自然光を取り入れるよう、中央に中庭を造り、天気や時刻、生まれながら人が自然と身に付いた感覚を遮断しないよう心がけた造りにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

周防灘を臨む自然環境の中、開設より3年目を迎え、より良好な地域との関係が築かれている。近隣の漁港や保育園、中学校等の地域交流を、人とのつながりを大切に、日々の実践で積み重ねてきたことにより、入居者の安全や安心のみならず、管理者、職員にとっても、かけがえのない支えとなっている。非常災害時には、地域住民等との円滑な連携が図れるよう近隣の中学校での防災訓練も実施されている。地域づくりを支えあう姿勢が、地域拠点として、より成長していることがうかがえる。事業所には、6つの委員会があり、職員の適正を考慮した委員会に属し、入居者一人ひとりの思いや意向を幅広い活動を通して研鑽に努め、職員の自己実現の場ともなっている。経験豊かな管理者のもと、職員の自発性も高まっていて、研修等の積極的な参加で、サービスの向上につながるよう相互に高めあう関係づくりがなされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関先やフロアにご家族が、ご理解して頂けるように掲示している。また、職員の意識づけの為、名札の裏に理念を入れ常時携帯している。その他、ユニット会議時に運営方針を確認し論議の方向指針としている。	法人理念のもとに、地域密着型施設としての運営方針を掲げている。連絡会議や毎月の全体会議では、議論の方向指針として、全職員間での共有化と意識付けを図っている。また、職員の名札の裏に印刷された運営方針は、日常の中で、振り返る事ができ、利用者一人ひとりを尊重したケアの実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	推進会議に参加されている地域代表から情報を頂き、その情報を基に地域の行事へ参加している。また、地域防災情報などを頂いている。	地域の行事への参加を積極的に行い、近隣の保育園や漁港、中学校等との交流は、利用者との日常的な会話の中でも、より自然に地域に定着しつつあることがうかがえる。管理者、職員のみならず、地域の方々が、積極的に連携して支えあう姿勢が、運営推進会議の充実したメンバー構成につながり、事業所や利用者への理解を深め、地域の一員として安心して暮らせる環境づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者と共に、地域の行事に積極的に参加させて頂き、交流の機会をつくり、地域で暮らしていけるような馴染みの関係を築くように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方や利用者家族を招いて、2ヶ月に一度会議を開催し、施設の現状報告を基に、意見交換を行いサービスの向上に努めている。	2ヶ月に一度、開催される運営推進会議には、家族代表、自治委員、老人会会長、保育園園長、校区中学校校長、市議会議員、民生委員等、充実したメンバー構成で、地域や事業所の情報交換にとどまらず、多方面からの意見を聞くことができています。会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者との連絡をとり、当施設の実情を報告し、ご指導頂いている。また、推進会議に参加して頂いている。	3ヶ月に一度、市町村担当者により開催されるグループホーム連絡会には、市内9箇所のグループホームが集まり、事業所の具体的事例を報告し、指導を仰ぐなど相互の情報共有や資質向上を図っている。また、日頃から困難なケースの相談や制度の活用などのアドバイスを受け、適切なサービス提供に取り組んでいる。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則として身体拘束は行っていない。ただし、ご利用者の安全を守るため、夜間ユニット入口の施錠を行っている。職員への周知については、入社時の基礎で業務マニュアルの内容を確認したうえで業務に入っている。	身体拘束は、原則として行っていない。職員は内部及び、外部研修に参加し、拘束、権利擁護、虐待等について学んでいる。日中は施錠しておらず、リビングの炬燵で一緒に横になったり、利用者の思いや意向に職員が寄り添い、同じ時間、空間を共有することで安心を得るなどして、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時のオリエンテーション時に、業務マニュアルに記載されている内容を周知している。また、休憩室にポスターを貼り、虐待防止の周知をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入所時のオリエンテーション時に、業務マニュアルに記載されている内容を周知している。また、専門の相談員や包括支援センターと必要時は連携し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用開始前に不安なきようサービスについての説明を行い疑問などにお答えしている。また、入居時についてはご家族に各種書面(重要事項説明書、契約書、運営規定)にて説明を行い、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見できる関係を築くように努め、玄関先に意見箱を設置し、ご家族や来園者がいつでも投稿できる環境に努めている。	運営推進会議の開催案内や小祝新聞、通院時の受診結果報告書などにより、利用者の日常の様子を家族へ伝えている。また、重要事項説明書の一番初めの項目に、相談・苦情窓口への連絡先が記載されていたり、面会簿や玄関先へ意見箱を設置するなど、利用者や家族の意見を言いやすい環境を作り、サービスに反映できるよう努めている。	家族との相互理解や家族力の発揮に向けて、家族との懇親会やアンケートの実施等、意見や要望の収集に向けた、より積極的な働きかけも期待されます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングの中で、意見や要望、業務提案を聞き取り、業務に取り入れている。ユニット会議や全体会議での意見交換を業務に反映できるよう努めている。	代表者や管理者は、職員の自主性や主体性を尊重し、率直な意見・提案を言えるよう配慮している。実際に毎月のユニット会議には、夜勤職員も参加しやすい時間に設定されており、ほぼ全員が自主的に参加しており、活発な意見交換がされている。職員の意見や要望を全体会議や管理者会議で検討し反映できるよう努めている。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善の為、毎月評価表を作成し、給料に反映している。労働時間については、業務終了後は速やかに帰宅できるように促している。また、都度のご利用者に合わせた外出行事等を職員の判断で取り入れ、向上心を仰いでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一回、施設内研修を行い、職員のスキルアップと共にご利用者のサービスの質の向上に努めている。また、外部研修情報を掲示し、自発的に参加できる環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の参加や認知症ネットワークの会に参加し、同業者と交流や情報交換を行い、サービスの向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前相談の段階からご家族同意のもと、ご本人様と数回お会いさせて頂き関係づくりに努めている。また、入居前の情報やご家族の話しを基にニーズを把握し、寄り添い、安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いをくみ取れるように、何度も相談を行いながら、ご家族の要望を反映し、本人が安心できるよう、ケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回訪問の情報だけでなく、入居前の担当者や主治医からの情報をふまえ、適切なサービスが提供できるよう見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護ではなく、ご利用者からのアドバイスやお手伝いを頂きながら、ご利用者と共に日常活動を行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時にご本人の状況を伝える事で、日々の情報の共有を行い、ご家族も支援できる関係づくりに努めている。また、施設行事の参加の呼びかけをし、家族との時間を持って頂けるように工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から情報を頂いたご本人の思い出の場所へのドライブや買い物に出かけている。また、馴染みの関係のある方の面会援助も行っている。	馴染みのある地域の祭りや催しに参加したり、スーパーや商店などへ利用者個々の買い物に出かけたり、図書館やお墓参り等、それぞれの馴染みや要望に沿った支援が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルの配置を工夫し、個性を生かし自然にコミュニケーションがとれ関係性が維持できるよう努めている。少数での活動や両ユニット合同のレクリエーションも出来るようにメリハリをつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の相談内容に応じて、必要な機関と連携を行い情報提供などを行っている。また、長期入院の方には、面会を行いながら、精神的援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前情報を踏まえ、日々の暮らしの中からも、ご本人の希望や思いをくみ取り、職員間で情報交換を行い生活に活かせるよう努めている。	前回の調査より、アセスメントシートの項目を見直し、利用者一人ひとりを知るツールとして、生育歴・職歴・嗜好・生活等が詳細に盛り込まれ、日々のケアにつなげている。事業所で行われている余暇活動には、ことわざカルタやガーデニング、塗り絵、ギター演奏など、利用者の意向や希望が取り入れられ、作品や会話などで機能維持に向けて、利用者を知る工夫がなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や前担当事業所からの情報を職員間で共有し、ご本人らしさのある生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日常を大切に健康状態観察と把握に努め、残存機能を活かした生活ができるよう援助している。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族からの意見、要望を取り入れながら、受診時は主治医から頂いた意見内容を基に、ケアカンファレンスを開催し、ケアプランに反映している。	本人及び家族等の意見やカンファレンス、モニタリングを通して、職員と積極的に意見交換をし、介護計画に反映している。また、アセスメントの際、事故予防計画や健康管理、機能維持についても家族と話し合い、ケアプランに反映させている。ケース記録は、利用者にとって主観的な視点も確保され、個別性を重視し、ケアプランに連動されるよう工夫されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを基に、記録とプランを連動させ、日々のアセスメントをしながら、ご本人に合わせたケアに繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人らしく生活して頂けるように、その時々状態に応じて、各ご利用者に応じ個別対応援助などを工夫し行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事や催し物には声をかけて頂き、可能な限り参加し馴染みの感覚や季節感、楽しさを喜びを感じ、心の豊かさを感じて頂けるよう努めている。また、行政が行っているサポート事業にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望している医療機関を利用していただけるように援助している。かかりつけ医には、ご本人の必要な情報を提供して。	本人及び家族の希望や状況に合わせて、適切な医療を受けられるように支援している。かかりつけ医の受診には、家族の協力を得て、職員も同行している。また、2週間に1回、協力医療機関からの訪問診療が実施されたり、法人内歯科医療機関からも無料歯科検診等が行われている。適切な指示、指導を受け、情報を共有し、ケアに活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の体調管理を行い、体調不良時は訪問看護に報告。急変時は、管理者、訪問看護師がオンコールにて駆けつけられる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護・介護サマリーの情報提供を行っている。入院期間中は、面会しながら精神面の援助を行い、同時にご家族やソーシャルワーカー、医療スタッフと連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の急変時はかかりつけ医や協力病院との連携を図り、緊急診療をお願いしている。また、病状変化については、ご家族に病状や診療結果の説明をし情報を共有している。	入居時に、「重度化した場合および看取りに関する指針」を説明し、意向を確認している。現在、対象となる利用者はいないが、身体状況が重度化した場合には、適切な対応できるよう、日ごろから家族・かかりつけ医・訪問看護師・職員等の関係者全てが情報を共有できるように努めている。看取りに関しても、利用者、家族の意向を確認し、可能な限り支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対策委員を設置しており、事故後すぐに対策を行い、再発防止に努めている。また、AEDや救命の講習等に職員が参加し、救急に対する意識の向上に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を利用者と一緒に行い、職員の防災への意識向上に努めている。緊急連絡網を都度見直し、緊急時に対応できるように周知している。	年2回の防災訓練を利用者全員の参加も得て、実施している。災害備蓄リストや対策マニュアルを作成して、職員間で情報共有している。近隣の中学校は、災害時の地域避難場所となっており、去年、中学校にて地域の防災訓練が実施されている。管理者や職員は、災害時等の危機管理意識を高く持ち、地域と協働できる体制づくりに取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に会った生活や習慣を尊重したコミュニケーションや対応を行っている。また、身体援助については、プライバシーが保護できるよう援助に努めている。	利用者一人ひとりのこれまでのライフスタイルや価値観を尊重し、日々の業務優先ではなく、その時々々の希望や状況に応じた柔軟な対応に努めている。排泄や入浴、衣服の脱着の際には、特にプライバシーに配慮し、細やかな声掛けや空間環境などで、利用者本位のケアになるよう対応している。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の意思を日常の会話や言動の中から、自己決定の表出に繋がるよう声かけや援助を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団での活動時間はあるが、ご利用者の習慣や状況、ペースを考慮し個々の過ごし方できるよう援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の表現やおしゃれが出来るようご本人の思いをくみ取りながら支援している。清潔の保持にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各ご利用者の嗜好調査を行い、季節に応じた調理方法や献立、個人に合わせたメニューを栄養士と相談しながら提供している。お好きで可能な方には盛り付けや下膳などを一緒に行っている。	屋外で竹を組み流しそうめんをしたり、慣れ親しんだ地域の回転寿司や割烹料理店での食事会など季節に応じ、食を楽しむことができる機会がもてるよう支援に努めている。利用者の嗜好調査を改めて行い、献立や調理方法についても個別ケアにつながるよう取り組んでいる。調理は、法人の厨房で行っているが、野菜の皮むきなど、利用者が可能な限り職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の健康チェック、個人の嗜好に合わせた飲料の種類や補食の種類を選択できるよう工夫している。摂取量にムラのある人は、看護師・栄養士に相談しながら食事の形態を変更したり、必要に応じてご家族の協力を得ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア援助を行い、適応者には義歯専用洗浄剤を使用している。また、無料歯科検診でアドバイスを頂き、口腔機能環境維持の為、口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残された機能を発揮できるよう努めている。1人ひとりの排泄パターンに合わせて、トイレでの排泄を優先しながら失禁の減少に努めている。	健康記録表を基に、個々の排泄パターンに合わせ、時間毎にトイレに誘導し、失禁の減少に努め利用者の尊厳を大切に支援している。また、トイレは、ユニット毎に3か所あり、どのトイレも車椅子の幅を気にすることなく、移動しやすいスペースが確保されている。	

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の水分量や活動量や食事量に注意している。便秘傾向の方は、腹部マッサージや体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回以上のスケジュールの中で、ご本人の気分や体調に合わせてながら、日時の変更を行い、ご本人の思いや習慣に合わせて柔軟に対応している。	1日おきの入浴日の設定はあるが、利用者の希望や状況、体調等に応じて、毎日の入浴が出来るように準備している。季節に合わせてゆず湯等、入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理に起床時間や就寝時間を決めず、ご本人の習慣やペースに合わせて休息や睡眠をとって頂けるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、細かな状態報告を行い処方をして頂いている。それに伴う服薬の増減や変更を薬効や副作用を含め説明し症状変化を確認し主治医と連携を取っている。服薬介助時は、薬の数を確認しながら介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や生活習慣の中から、本人の喜びや楽しみを見出せるように役割づくりや家事活動、レクリエーション、趣味活動などを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の体調に合わせて可能な限り戸外散歩や外出、地域行事に出かけるよう努めている。また、ご家族の協力が可能な方には、家族外出援助を行って頂いている。	日用品の買い物や慣れ親しんだ地域の図書館、飲食店、神社、通院など、利用者の希望や体調に合わせて、可能な限り外出支援を行っている。また、事業所の広い敷地内にあるベンチや中庭のウッドデッキで外気浴が行われたり、近隣の散策など外出が日常的なものになるよう支援している。家族の協力を得て、温泉や外食にもでかけており、積極的に外出できる機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の意向に合わせ、ご家族の許可や了承を頂き、管理できる範囲の金額を所持している。また、ご本人の希望があれば、個別で対応し、施設立替えて個別買い物外出援助で購入できるように対応している。		

大分県 グループホーム 小祝

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望がある方は携帯電話を持たれ、自由に連絡をしている。ご家族や友人からの電話や手紙の要望がある時は、ご家族の承諾のもと、取り次ぎをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンオープンキッチンにし、利用者と共同作業しやすくしている。また、リビングは圧迫感のないように天井を高くし、上窓からも採光を取り入れやすいようにしている。	木造平屋建てで、広々とした敷地内にグループホーム2ユニットと小規模多機能型施設が併設されている。中庭を挟んで各ユニット毎のリビングやトイレ、浴室、居室等が設けられ、十分に自然光が入り、事業所全体がとても開放的で明るい作りとなっている。利用者は、中庭にあるウッドデッキや敷地内のベンチで、季節を感じながら外気浴を楽しんでいる。リビングにある炬燵は、利用者にとって安らぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	くつろぎの空間を設置し、ソファやテーブルなどの居場所をご本人の活動に応じて選べるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの馴染みの生活環境が維持できるように、使い慣れた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。居室内の家具の配置等、ご本人、ご家族と相談しながら生活しやすい場所になっている。	各居室には、洗面台・エアコン・クローゼット・緊急通報ボタン・フットライトを設置し、利用者のプライバシーを尊重しながらも安全や安心に配慮している。使い慣れた家具や思い入れのある品々が持ち込まれ、入居者にとって居心地の良い空間になるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やテーブルの席にネームプレートを表示し、ご自身で生活の場所が認識できるようにしている。施設内は、バリアフリー、手すりを設置。ベットの介助バーを設置し、安全に立ち上がりができるようにしている。		